



## 認知症の方が絵手紙を盗った、ネガティブ感情を探ってみたら・・・

[あとで読む](#)

【尊厳ある介護（34）】たいてい認知症の人自身が答えを持っている

公開日：2018/03/08 (ソサエティ)

里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長）



ある日の絵手紙教室の風景（里村氏提供）

絵手紙教室のある日は、グループホーム利用者、江島洋子さん（仮名 83歳）が、朝から介護スタッフに何度も尋ねます。「何時に絵手紙の先生は来るの」と。

江島さんは認知症があるので聞いたことをすぐに忘れてますが、昔趣味で絵を習っていたこともあり絵手紙が得意です。

その日は、最近参加し始めた石山美津さん（仮名 85歳）のほか数名の利用者が、先生の指導のもと絵手紙を書いていました。

絵手紙が終わって介護スタッフが片付けをしていたら、石山さんが「自分の書いた絵手紙がない」と半泣きで言われました。みんなでごみ箱まで探しましたが見つかりませんでした。

それから少し経って、介護スタッフは江島さんのお部屋に掃除に入りました。そこで、机の上に美津と名前の入った石山さんの絵手紙を発見したのです。

江島さんに「この絵手紙は石山さんの物なので返しましょう」と言ったら、「違う。私の絵手紙です」と強く拒否されたそうです。

その後その介護スタッフから「江島さんは石山さんの絵手紙を何枚も持っています。江島さんはたくさん絵手紙を持っているので、石山さんの絵手紙を一枚返して

あげても分からないと思いますが」と相談がありました。

「たとえば、私の部屋に石山さんの絵手紙があったら、私の承諾なしに石山さんに返しますか」と私は介護スタッフに尋ねました。

「いいえ、そんなことはしません。おそらく何らかの理由があって石山さんの絵手紙が部屋にあると思うからです。でも石山さんは今でもなくなった絵手紙を探しています。それを江島さんが持っているのに放っておくのでしょうか」と介護スタッフは困った表情で言いました。

私は「利用者のことで悩んだり迷ったりしたら、当事者である利用者に聞くことにしています。たいていの場合答えは利用者が持っているから」と話しました。

そして、答えを聞くために江島さんの部屋を訪ねました。少しの間他愛もない雑談をしていましたが、江島さんが嬉しそうに絵手紙持ち出して、一枚一枚作品に込めた思いと苦勞を語りながら私に見せ始めたのです。

私はそれを共感しながら聞いていました。人に見せたくなるような素敵な作品ばかりです。その中に色の使い方が絶妙な石山さんの絵手紙もありました。

そこで「この絵手紙は美津と名前が書いてありますが」と江島さんに聞いてみました。すると意外なことに「これは石山さんの物なので返してあげてください」と江島さんは絵手紙を差し出されたのです。

それを受け取った私は介護スタッフにこの絵手紙を渡し、石山さんには江島さんから預かったと言って絵手紙を返すように伝えました。石山さんが喜んだのは言うまでもありません。

どうして、急に江島さんが石山さんの絵手紙を返す気持ちになったのか、本当のところは分かりません。

江島さんは認知症なので石山さんの絵手紙を自分の物だと勘違いして、それに気付いたので返すことにしたのかもしれない。

しかし、私は江島さんに石山さんの作品が自分より優れているのではないかと、うネガティブな感情があるのではないかと推察したのです。

表出されない負の感情は受容や共感することで解消されることがあります。そこで、江島さんと個別の時間を持ったのです。

その結果、自分の作品に対する思いと苦勞を受け入れられたと思った江島さんは、石山さんの絵手紙を必要としなくなったのではないかと思うのです。

認知症の人だと思えば、本人の承諾なしに絵手紙を部屋から持ち出す誤った対応をする可能性が私たちにはあります。

誤った対応は信頼を損ないます。失われた信頼は、認知症の周辺症状(不安、興奮、暴言、徘徊、妄想など)となって別の形で表れることがないとはいえません。

そのようにならないためにも、認知症の人であろうとなかろうと、関わり方に違いがないよう心掛けています。

(注) 事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。

<この連載は水曜日に掲載しています>

続報リクエスト

マイリストに追加

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子氏のバックナンバー](#)
- > [朝鮮半島の行方・・・「二度あることは三度ある」](#)
- > [日銀の外債購入は実現困難](#)
- > [公文書書き換え 刑法156条、懲役1年以上10年以下の懲役](#)
- > [重度の認知症の方にも「コーヒーですか、紅茶ですか」と聞き続ける](#)

プロフィール

最近の投稿

里村 佳子( 社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長)



法政大学大学院イノベーションマネジメント（MBA）卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設の担当理事。2017年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設。

News Socraは、記者30年、新聞協会賞受賞の元日経新聞の土屋直也が編集長をしています。ネットで本当のジャーナリズムを盛り上げたいと思い、ベテランライターによる独自記事とセレクト記事を掲載しています。

[トップへ](#)

アプリでもご覧になれます



いいね! 0

シェア 0

ツイート

G+

LINEで送る

[この記事編集](#)

<a href="#">ソクラとは</a>	<a href="#">FAQ</a>
<a href="#">編集長プロフィール</a>	<a href="#">利用規約</a>
<a href="#">利用案内</a>	<a href="#">プライバシーポリシー</a>
<a href="#">著作権について</a>	<a href="#">特定商取引法に基づく表示</a>
<a href="#">メーキングソクラ</a>	<a href="#">お問い合わせ</a>
<a href="#">お知らせ一覧</a>	<a href="#">コラムニストプロフィール</a>

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved